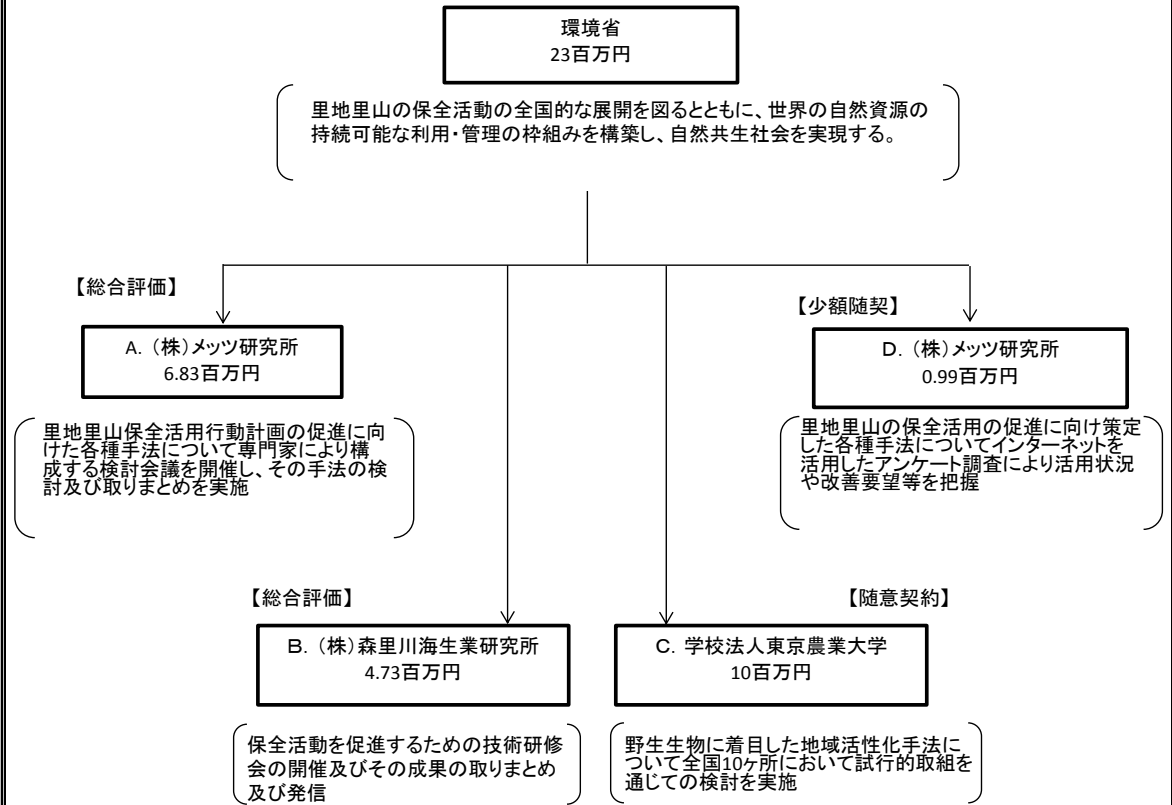


平成25年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	里地里山保全活用行動推進事業		担当部局庁	自然環境局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成20年度～ (平成23年度事業名改定)		担当課室	自然環境計画課		課長 亀澤 玲治		
会計区分	一般会計		政策・施策名	5. 生物多様性の保全と自然との共生の推進 5-2 自然環境の保全・再生				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、 通知等	生物多様性国家戦略2012第3部第1章第6節				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	里地里山の保全活動の全国的な展開を図るとともに、自然資源の持続可能な利用・管理の枠組みを構築し、自然共生社会を実現する。							
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	里地里山の保全活動を効率的かつ継続可能な取組とするため、里地里山の保全活用の取組について調査・分析を行い、特徴的な取組事例についての情報を発信する。また、保全活動の担い手の育成支援のための技術研修会の開催や里地里山の生態系管理などに関する専門家などの人材の登録・紹介を行うとともに、多様な主体の参加の促進を図るため、活動への参加を募集する全国の活動団体や活動場所等を紹介するための情報発信を行う。さらに、全国各地において里地里山の保全活動の展開を図ることを目的に策定した「里地里山保全活用行動計画」の促進を図るため、里地里山における自然資源の管理・利活用方策についての検討を行うほか、保全再生活動への多様な主体の参加を図るための社会システムを構築し、地域での自主的な里地里山の保全再生の促進を図る。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		当初予算	91	91	24	22	10	
		補正予算	0	0	0	0		
		繰越し等	0	0	0	0		
	計	91	91	24	22	10		
	執行額	83	90	23				
執行率 (%)	91	99	96					
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	成果指標については、活動団体数や活動への参加者数の増加数等が考えられるが全国には不特定多数の活動組織が存在することからその確実な把握が困難であるため		成果実績	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	保全活動の技術支援や担い手育成支援としての「里なび研修会」の開催及び技術方策等の整理・発信		活動実績 (当初見込み)	地域	10	10 (10)	5 (5)	- (5)
単位当たり コスト	研修会開催・技術方策の発信 (945,000円/地域)		算出根拠	X=委託金額:4725,000円 Y=研修会開催地域数:5地域				
平成 25 ・ 26 年度 予算 内訳	費目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	環境保全調査等委託費		22	10	生物多様性保全上重要な里地里山を選定し、重点地域を効率的に保全・管理・再生していくための事業に絞り込み縮減した。			
計		22	10					

事業所管部局による点検						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	里地里山は野生生物の生息環境として重要な地域であるとともに、水、食料、燃料の供給や土壌浸食の低減、水源涵養などの役割など広く国民に自然の恵みを与えている重要な地域であることから、その保全活用を行う本事業の必要性は高いと考えられる。また、里地里山の保全活用については、全国レベル、地域レベル、個別団体レベルでの各々の役割の基、効率的・効果的に進める必要がある。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	支出先の選定にあたっては、契約方式に総合評価落札方式を導入するなどその透明性・公平性・競争性の確保は図られている。なお、随意契約については、単年度契約が不適切な業務であったことから、前年度の契約時に2か年での業務の実施を前提とした総合評価落札方式により支出先を選定しており、その受託者と随意契約している。単位あたりコストの水準については、必要最小限の成果に対する支出としており、コストの水準は妥当と考えている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	情報発信や技術支援においては、活動参加者数の増加や多様な主体との連携が図られるなど、効果が認められている。また、保全活用を促進するための効果的な手法(指針)については、H25年度、地方自治体の窓口を通じて全国の活動団体等に活用予定としていることから、これに伴い全国での保全活用の展開が期待される。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	当該事業においては、これまで里地里山の保全活用の取組の担い手育成の支援として、HPIによる活動団体・場所の紹介や里地里山の生態系管理などに関する専門家などの人材登録・紹介、技術研修会を行ってきたところである。この結果、一部の地域において、保全活動への参加者数の増加や多様な主体との連携の促進が図られるなど一定の効果が認められてきたことから、平成24年度は、HPでの情報発信の効率化を行うと共に、保全活動状況や開催実績等に基づき開催場所の重点化を図るなど予算の効率的な実施に努めてきたところである(単位あたりコスト(百万円/地域)1,260(H23)→945百万円(H24))。今後も引き続き、地域での自立的な里地里山の保全活用が持続的に行われるための効果的な情報発信や必要な技術的支援を効率的・重点的に実施する。					
	一方、保全活用を促進するための効果的な手法として、自然資源の利活用方策や多様な主体の参加を促進するための方策、また、地方自治体の保全活用の取組を促進するための典型的な里地里山の選定手法、個別活動団体の活動の志気を高めるための保全活動による推進効果の検証方法など、これまで数年をかけて検討してきた各種手法が確立されることから、今後はその成果の活用を促すための普及に努めるとともに、これによる保全活動の広がりが期待されることである。 なお、里地里山の保全活用の取組については、これまでの取組により着実にその広がりは認められてきているが都市部周辺に偏っており、生物多様性保全上重要な中山間地域では未だ十分な広がりは見られていない。このため、今後も中山間地域の活動の促進を図るために効果的な手法等の検討を行っていくことが重要であることから、限られた予算の中で、より効果的な手法の検討を行うとともに、公平性・透明性・競争性のある調達に努め、効率的な執行を行い、目的に即した効果的・効率的な事業の実施に努める。					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
抜本的な全改善の	事業の最終目標を明確にし、それに向けた重点化を行うこと。					
	所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
縮減	生物多様性保全上重要な里地里山を選定し、重点地域を効率的に保全・管理・再生していくための事業に絞り込み予算要求を行うこととする。					
	備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	172	平成23年	164	平成24年	173

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補
足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.(株)メッツ研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	総括研究員及び研究員 7人	4.69			
一般管理費		0.88			
旅費	委員、職員	0.52			
謝金	委員 延べ18人(検討会2回開催分)	0.31			
借損料	会議室借損料	0.20			
印刷製本費		0.13			
その他	その他	0.10			
計		6.83	計		0
B.(株)森里川海生業研究所			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	総括研究員及び研究員 6人	2.39			
旅費	職員、講師	0.87			
一般管理費		0.59			
謝金	講師延べ20人	0.32			
借損料	会議室借損料、バス・レンタカー(移動用)	0.27			
印刷製本費		0.17			
通信運搬費	資料発送費	0.12			
計		4.73	計		0
C.学校法人 東京農業大学			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	総括研究員及び研究員 3人	7.5			
一般管理費		1.1			
旅費	職員、専門家	1.0			
印刷製本費		0.3			
その他	謝金、借料、通信運搬 等	0.1			
計		10	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)メッツ研究所	里地里山保全活用行動計画推進委託事業	6.83	2	71.4

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)森里川海生業研究所	里地里山保全活動支援委託業務	4.73	3	90.3

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	学校法人東京農業大学	野生生物の利活用による地域づくり試行検討調査委託業務	10	随意契約	-

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)メッツ研究所	里地里山保全活用促進手法に関するアンケート調査委託業務	0.99	少額随契	-